

# コロナ禍による県内消費行動の変化

## —インターネット通販とキャッシュレス決済の利用状況—

### 1 過去1年間にインターネット通販を利用した割合は、回答者全体の75.7%

- ・利用した回答者のうち、新型コロナウイルスの感染拡大前と比べて利用頻度が増えた割合は49.0%となり、年代別では、29歳以下（65.1%）と30代（58.6%）で5割を超えた。
- ・主な購入品目は、「衣類・服飾品」（67.0%）、「日用品」（50.2%）、「化粧品」（36.6%）となった。

### 2 過去1年間にキャッシュレス決済サービスを利用した割合は、回答者全体の83.0%

- ・利用した回答者のうち、感染拡大前と比べて利用頻度が増えた割合は53.5%となり、年代別では、50代以下で5割を超え、30代（65.8%）で最も高くなった。
- ・利用したキャッシュレス決済サービスの種類は、回答割合が高い順に、「クレジットカード」（91.2%）、「電子マネー・プリペイドカード」（58.3%）、「QR・バーコード」（36.6%）となった。

### 1 新型コロナウイルスの感染拡大による影響

当研究所は、新型コロナウイルス感染拡大による秋田県内の消費行動への影響を把握するため、2021年10月にアンケート調査を実施し、593名の方から回答をいただいた。

#### 《調査要領》

回答数：593名（回答率44.7%）

調査方法：秋田銀行の本支店を通じて依頼し、  
店頭または郵便により回収

調査時期：2021年10月

#### 回答者の年齢別内訳

（単位：%）

29歳以下	11.1
30代	13.0
40代	24.8
50代	22.4
60代	16.9
70歳以上	11.6
無回答	0.2
全体	100.0

### (1) インターネット通販の利用状況

#### a 利用の有無、利用頻度の変化

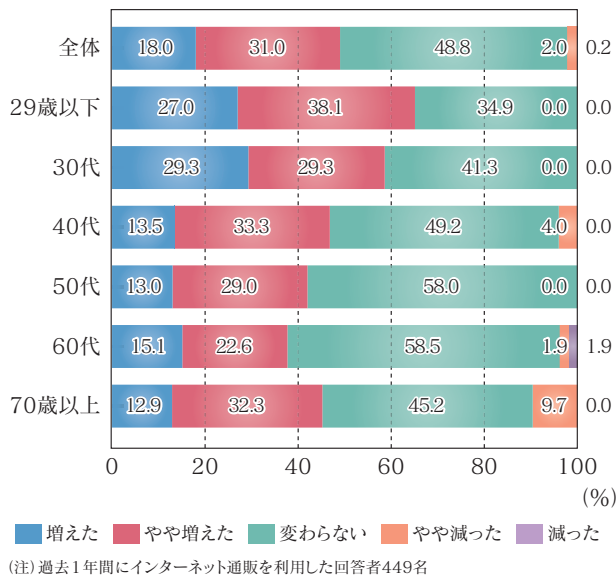
過去1年間にインターネット通販を利用した割合は、回答者全体の75.7%となった（図表1）。年代別にみると、利用割合は、30代（97.4%）をピークに、年代が上がるにつれて低下した。また、70歳以上でのみ、「利用しなかった」とする割合（55.1%）が「利用した」（44.9%）を上回った。

また、過去1年間にインターネット通販を「利用した」と回答した449名を対象に、新型コロナウイルスの感染拡大前と比べた利用頻度

図表1 過去1年間のインターネット通販の利用状況  
（単位：%）

	利用した	利用しなかった
全体	75.7	24.3
29歳以下	95.5	4.5
30代	97.4	2.6
40代	85.7	14.3
50代	75.2	24.8
60代	53.0	47.0
70歳以上	44.9	55.1

図表2 新型コロナウイルスの感染拡大前と比較したインターネット通販の利用頻度



の変化を尋ねたところ、「増えた」(18.0%)と「やや増えた」(31.0%)の合計は全体の49.0%となった(図表2)。次いで、「変わらない」が48.8%となり、「やや減った」(2.0%)と「減った」(0.2%)の合計は2.2%となった。

年代別では、「増えた」と「やや増えた」を合わせた回答割合は29歳以下(65.1%)と30代(58.6%)で5割を超えた一方、「変わらない」は50・60代で5割を超えた。70歳以上では、「やや減った」(9.7%)が他の年代を大きく上回った。

### b 購入金額

過去1年間にインターネット通販で商品を購入した金額の合計は、全体では「10万円以上」

図表3 過去1年間にインターネット通販で購入した商品の合計金額

	5千円未満	5千円以上 1万円未満	1万円以上 5万円未満	5万円以上 10万円未満	10万円以上	わからない
全体	2.0	7.3	25.2	19.8	40.8	4.9
29歳以下	0.0	1.6	14.3	25.4	50.8	7.9
30代	1.3	6.7	12.0	28.0	48.0	4.0
40代	1.6	4.8	30.2	13.5	42.1	7.9
50代	4.0	10.0	31.0	17.0	35.0	3.0
60代	0.0	17.0	26.4	26.4	30.2	0.0
70歳以上	6.5	6.5	38.7	12.9	32.3	3.2

(注) 過去1年間にインターネット通販を利用した回答者449名

(40.8%)とする回答割合が最も高く、次いで、「1万円以上5万円未満」(25.2%)、「5万円以上10万円未満」(19.8%)となった(図表3)。

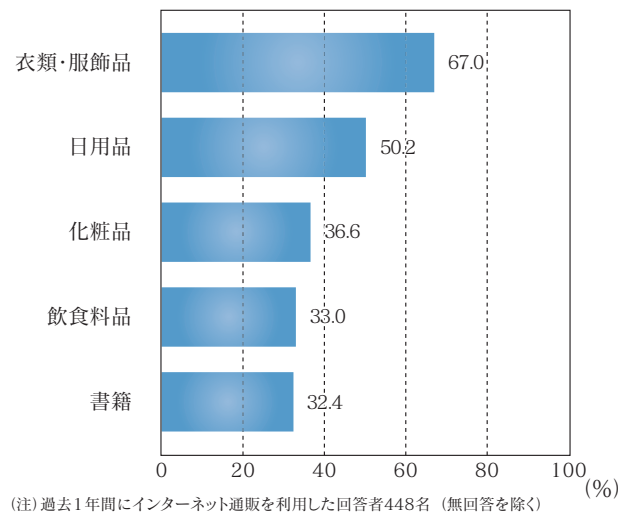
年代別にみると、60代以下では「10万円以上」を選んだ割合が最も高くなったが、70歳以上では「1万円以上5万円未満」(38.7%)が高くなった。また、50代以上では、「1万円未満」とする割合が二桁に達した。

### c 購入した商品(6項目複数回答)

インターネット通販で購入した主な商品は、回答割合が高い順から、「衣類・服飾品」(67.0%)、「日用品」(50.2%)、「化粧品」(36.6%)、「食料品」(33.0%)、「書籍」(32.4%)となった。

(図表4)

図表4 インターネット通販で購入した商品上位5項目(6項目複数回答)



(2) キャッシュレス決済の利用状況

a 利用の有無、利用頻度の変化

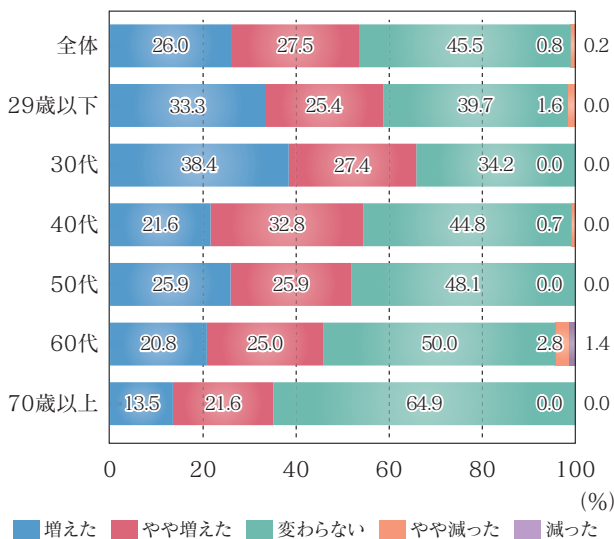
過去1年間にキャッシュレス決済を利用した割合は、回答者全体の83.0%となった(図表5)。年代別の利用割合は、29歳以下(95.5%)で最も高く、40代以下でも9割台となった。年代が上がるにつれて割合は低下し、70歳以上(53.6%)で最も低くなった。

図表5 過去1年間のキャッシュレス決済の利用状況 (単位: %)

	利用した	利用しなかった
全体	83.0	17.0
29歳以下	95.5	4.5
30代	94.8	5.2
40代	91.8	8.2
50代	83.2	16.8
60代	72.7	27.3
70歳以上	53.6	46.4

過去1年間にキャッシュレス決済を利用した回答者489名に、新型コロナウイルスの感染拡大前と比較した利用頻度の変化を尋ねたところ、「増えた」(26.0%)と「やや増えた」(27.5%)の合計は53.5%となり、「変わらない」(45.5%)を上回った(図表6)。また、「やや減った」と「減った」の合計は1.0%と非常に少なかった。

図表6 新型コロナウイルスの感染拡大前と比較したキャッシュレス決済の利用頻度



(注) 過去1年間にキャッシュレス決済を利用した回答者488名(無回答を除く)

年代別にみると、「増えた」と「やや増えた」の合計は、50代以下で5割を超え、30代(65.8%)で最も高くなった。一方で、「変わらない」は、70歳以上(64.9%)で最も高く、60代でも50.0%となった。

b 利用したサービスの種類(6項目複数回答)

利用したキャッシュレス決済サービスの種類は、利用割合が高い順に、「クレジットカード」(91.2%)、「電子マネー・プリペイドカード」(58.3%)、「QR・バーコード」(36.6%)、「交通系ICカード」(15.3%)、「デビットカード」(13.1%)となった(図表7)。

年代を問わず、「クレジットカード」の利用割合が高く、最も低い70歳以上(83.8%)でも8割超となった。また、「電子マネー・プリペイドカード」も、すべての年代で4割を超えた。「QR・バーコード」は、30代以下で5割台と他年代を上回り、特に、29歳以下(57.1%)では「クレジットカード」(95.2%)に次いで利用割合が高くなった。「交通系ICカード」と「デビットカード」は、29歳以下でのみ2割を超えた。

図表7 利用したキャッシュレス決済サービスの種類 (6項目複数回答)

	クレジットカード	電子マネー・プリペイドカード	QR・バーコード	交通系ICカード	デビットカード	その他
全体	91.2	58.3	36.6	15.3	13.1	0.2
29歳以下	95.2	50.8	57.1	25.4	27.0	0.0
30代	94.5	61.6	54.8	17.8	17.8	0.0
40代	90.3	60.4	34.3	14.9	9.7	0.0
50代	89.0	56.0	35.8	12.8	15.6	0.0
60代	94.4	66.7	19.4	12.5	4.2	0.0
70歳以上	83.8	48.6	8.1	8.1	2.7	2.7

(注) 過去1年間にキャッシュレス決済を利用した回答者489名

c 購入金額

キャッシュレス決済で購入した商品の合計金額は、「10万円以上」(67.2%)とする回答割合

図表8 過去1年間にキャッシュレス決済で購入した商品の合計金額

(単位：%)

	5千円未満	5千円以上 1万円未満	1万円以上 5万円未満	5万円以上 10万円未満	10万円以上	わからない
全体	1.2	3.1	11.5	11.3	67.2	5.6
29歳以下	1.6	1.6	7.9	15.9	68.3	4.8
30代	1.4	4.1	8.2	9.6	69.9	6.8
40代	0.0	0.8	12.8	8.3	72.2	6.0
50代	3.7	6.5	13.9	10.2	61.1	4.6
60代	0.0	4.3	12.9	7.1	72.9	2.9
70歳以上	0.0	0.0	10.8	29.7	48.6	10.8

(注) 過去1年間にキャッシュレス決済を利用した回答者485名(無回答を除く)

が最も高く、次いで、「1万円以上5万円未満」(11.5%)、「5万円以上10万円未満」(11.3%)となった(図表8)。

すべての年代で、「10万円以上」の割合が最も高くなっている。30代以下では、合計金額が上がるにつれて回答割合も上昇した。他方、40～60代では、「10万円以上」に次いで「1万円以上5万円未満」が高くなった。70歳以上では、「1万円未満」とする回答がみられなかった。

#### d 利用した実店舗(4項目複数回答)

キャッシュレス決済を利用した実店舗は、回答割合が高い順から、「スーパーマーケット」(65.1%)、「ドラッグストア」(58.6%)、「コンビニエンスストア」(57.7%)、「百貨店・ショッピングセンター・モール」(56.2%)

図表9 キャッシュレス決済を利用した実店舗上位6項目(4項目複数回答)

(単位：%)

	スーパーマーケット	ドラッグストア	コンビニエンスストア	百貨店・ショッピングセンター・モール	飲食店(ファーストフード、カフェも含む)	ガソリンスタンド
全体	65.1	58.6	57.7	56.2	22.6	20.3
29歳以下	44.4	49.2	77.8	55.6	38.1	17.5
30代	69.9	71.2	63.0	56.2	23.3	17.8
40代	71.3	65.9	69.0	60.5	21.7	20.2
50代	62.9	58.1	54.3	52.4	25.7	16.2
60代	68.1	53.6	34.8	55.1	11.6	27.5
70歳以上	72.7	33.3	21.2	57.6	9.1	30.3

(注) 過去1年間にキャッシュレス決済を利用した回答者473名(無回答を除く)

となった(図表9)。

年代別では、29歳以下で「コンビニエンスストア」(77.8%)、30代で「ドラッグストア」(71.2%)、「スーパーマーケット」は40代(71.3%)と70歳以上(72.7%)で、回答割合が各々7割を超えた。「飲食店(ファーストフード、カフェも含む)」は50代以下で、また、「ガソリンスタンド」は60代以上で利用率が比較的高くなった。

## 2 まとめ

本アンケート調査の回答者では、新型コロナウイルス感染拡大前と比べて、30代以下の若い層でインターネット通販の利用頻度が増えた。

一方で、キャッシュレス決済サービスは、より年齢層が広がり、50代以下で利用が増えた。コロナ禍のなか、生活必需品を扱う実店舗で利用が進み、感染防止を目的に非接触型の決済方法として普及したようだ。ただし、シニア世代では頻度に変化がない割合が高い。他の年代よりもスマートフォンの所有率が低いため、アプリを利用した決済サービスの浸透が遅れているものと推測される。

インターネット通販にはクーリング・オフ制度がなく、キャッシュレス決済は多用すると支出全体の把握が難しくなるなど、利便性の陰には注意すべき点もあることから、より冷静で計画的な消費行動も必要となろう。(相沢 陽子)